

**「献血と血液製剤」
生活者の認識・意識
実態調査**

平成22年8月25日

株式会社QLife(キューライフ)

調査の背景

血液製剤(血漿分画製剤を含む)は、手術で使われるなど現在医療に欠かせない。日本では、血液製剤は100%国産のものを使う方針となっている(2003年、血液法)一方で、「若者の献血離れ」が叫ばれている。そのため、医療に関心の高い人、そして過去に血液製剤を含む治療経験を持つ人が、どの程度、国内の血液製剤事情を認識しているのか、献血に関心があるのか、について実態調査を行った。

なお、本調査の設計・分析にあたっては、虎の門病院 輸血部長 牧野茂義先生に協力をいただいた。

結論の概要

- 「献血」経験は、全体では63%だが、20代は39%にとどまる
 - ・20代と30代の間で、大きな世代ギャップがあった。これは、(献血初体験の機会が20代に多いのか、もしくは)今の20代の献血率が、以前の同世代の献血率に比べて、大きく下落している可能性を示す。
- 「輸血など血液製剤を使った治療」経験は、自身が8%、家族が21%
 - ・自分の家族が、血液製剤の恩恵を受けた経験があっても、献血経験率があまり高くなるわけはなかった。
- 日本の血液製剤事情は、多くの人が「なんとなく」認識している
 - ・「輸血用の血液製剤が100%国産である」ことを、10%が明確に知っていたが、47%は「なんとなく」知っていた。
 - ・「国産の血液製剤の原料はすべて献血由来である」ことを、22%が明確に知っていたが、44%は「なんとなく」知っていた。
 - ・「なんとなく」が大勢を占めた点には、(後出の輸入製剤への強い拒否反応を見ると)「当然そうあるべきであろう、そうあって欲しい」との要望の表れとも考えられる。
- 輸入製剤には拒否反応
 - ・血液製剤には国産を希望する人が、「強く」60%、「どちらかというと」32%であった。
 - ・輸入を否定する理由は、安全性に対する不安が多い。ただし「なんとなく」も多かった。
 - ・国内の血液製剤事業に対しては、「安全性」「管理」「情報開示」を望む声が多かった。

注意: 本調査の回答者層には医療に関心・関与度が高い人が多く含まれているため、「経験がある」の「絶対値」は、全国平均にくらべると高い数値となっている可能性が高い。よって、主に相対的な分析を行った。

【調査実施概要】

▼調査責任
株式会社QLife

▼実施概要

- (1) 調査対象: 全国の生活者
- (2) 有効回収数: 7,803人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2010/7/28～2010/8/10
- (5) 協力: 虎の門病院 輸血部長 牧野茂義先生

▼有効回答者の属性

	男	女	計
10代	0.6%	0.6%	1.3%
20代	4.4%	7.2%	11.6%
30代	5.5%	8.0%	13.6%
40代	11.6%	11.4%	23.1%
50代	13.6%	8.5%	22.1%
60代	14.9%	4.6%	19.5%
70代	7.0%	1.4%	8.4%
80代	0.5%	0.1%	0.6%
計	58.2%	41.8%	100.0%

【調査結果の詳細】

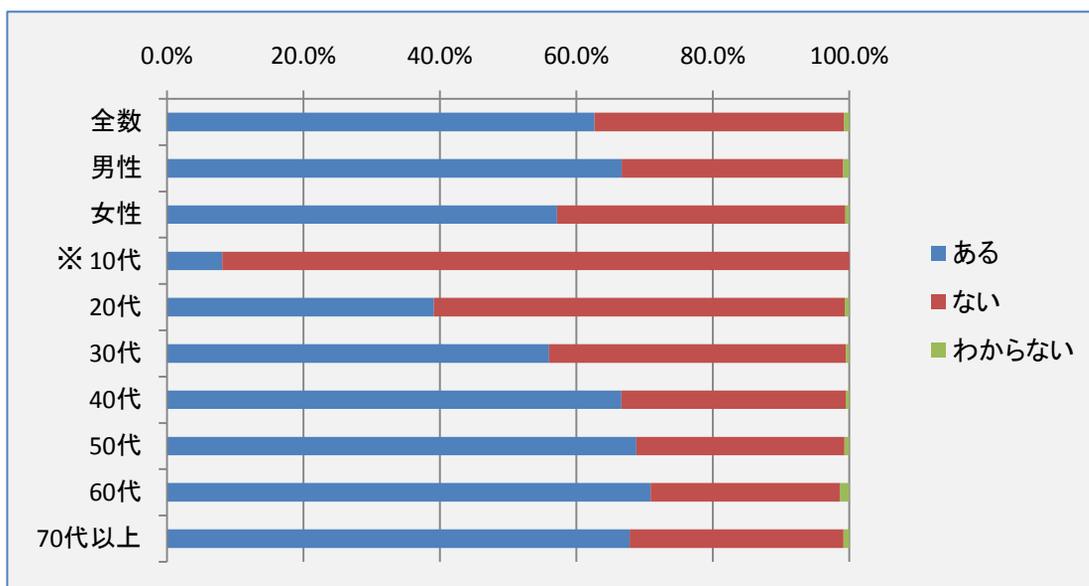
注意:本調査の回答者層には医療に関心・関与度が高い人が多く含まれているため、「経験がある」の「絶対値」は、全国平均にくらべると高い数値となっている可能性が高い。よって、以下では、主に相対的な分析を行う。

1. あなたは、献血(自発的な無償の献血)をした経験がありますか。

これまで献血経験がある人は、全体で63%に上った。

男性の方が献血に積極的だ。年代別の動きを追うと、10代は献血可能割合が小さい(※参照)ので単純解釈はできないが、20代と30代の世代間ギャップは大きい。これは、「初めて献血参加する機会が20代に多い」ないし「10-20代の献血率が、以前の同世代に比べて下落傾向にある」ことを示す。

	全数	男性	女性	※ 10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
ある	62.7%	66.6%	57.1%	8.1%	39.1%	56.0%	66.6%	68.8%	70.9%	67.8%
ない	36.6%	32.5%	42.3%	91.9%	60.2%	43.5%	32.9%	30.5%	27.7%	31.3%
わからない	0.8%	0.9%	0.6%	0.0%	0.7%	0.5%	0.5%	0.7%	1.4%	0.9%

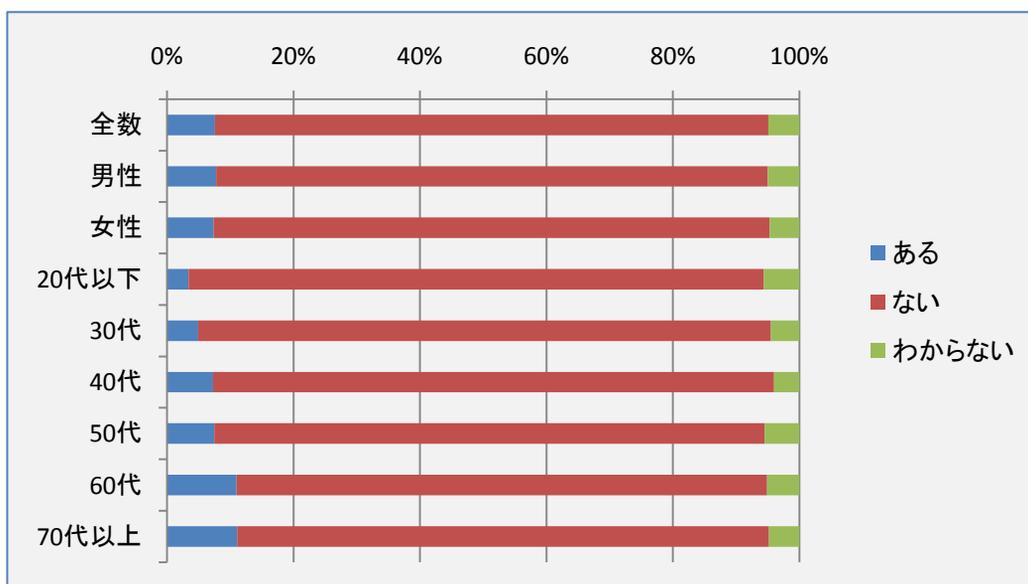


※「10代」の有効回答者数は99人で、含まれる最小年齢は13歳であった。また現在、献血ができる年齢は16～69才である。

2. あなたは、輸血など血液製剤を使った治療をした経験がありますか。

これまで輸血など血液製剤を使った治療の経験があるのは、全体で8%であった。男女別であまり大きな差はなく、急激に経験率が上昇する年代もみられない。

	全数	男性	女性	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
ある	7.6%	7.8%	7.4%	3.4%	4.9%	7.3%	7.5%	11.0%	11.1%
ない	87.5%	87.2%	88.0%	91.0%	90.6%	88.7%	87.0%	83.9%	84.0%
わからない	4.9%	5.0%	4.7%	5.6%	4.5%	4.0%	5.5%	5.1%	4.8%



3. あなたの家族(同居ないし2親等以内)は、輸血など血液製剤を使った治療をした経験がありますか。

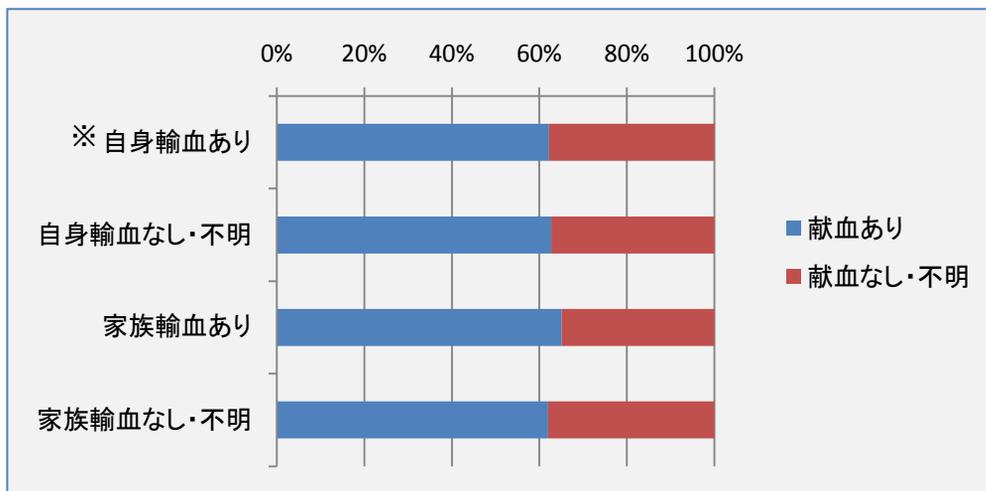
家族に、輸血など血液製剤を使った治療経験がある人は、全体で21%であった。年代別で一番高いのは50代で、25%にのぼった。

	全数	男性	女性	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
ある	20.7%	20.2%	21.5%	13.2%	19.4%	21.7%	25.3%	21.4%	18.7%
ない	64.9%	66.5%	62.7%	62.4%	65.4%	62.3%	63.3%	68.0%	71.7%
わからない	14.4%	13.3%	15.8%	24.4%	15.2%	16.0%	11.4%	10.7%	9.7%

4. 自身や家族の「輸血など血液製剤を使った治療」経験と、「献血」経験の相関

前問と前々問の結果、すなわち「輸血」経験と「献血」経験の間でクロス集計をしたが、あまり相関は見られなかった。献血は、助け合いの構図によって成り立っているが、家族が輸血などで血液製剤の恩恵を受けた経験を持っていても、献血に積極的になる人が特に多いわけではなかった。

	献血経験あり	献血経験なし・不明	合計
※自身の輸血経験あり	62.2%	37.8%	100.0%
自身の輸血経験なし・不明	62.7%	37.3%	100.0%
家族の輸血経験あり	65.1%	34.9%	100.0%
家族の輸血経験なし・不明	62.0%	38.0%	100.0%

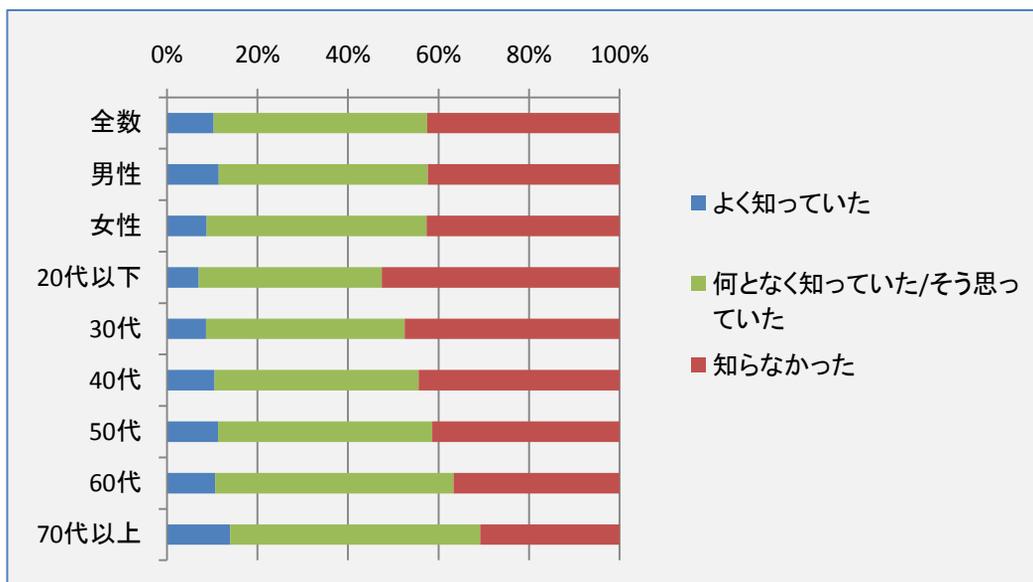


※自身が輸血経験ある場合は、献血は「ご遠慮いただく」(日本赤十字社ホームページより)のが実態。

5. 病院などで使用される「輸血用の血液製剤」は、100%が国産製剤(日本国内で原料を確保し、製造されたもの)であることを、ご存知でしたか。

輸血用の血液製剤は全て国産のものであると、明確に知っていた人は10%、「何となく」知っていた人は47%で、合計58%にのぼった。男性の方が、また年代が高まる方が、認知度は高まる。

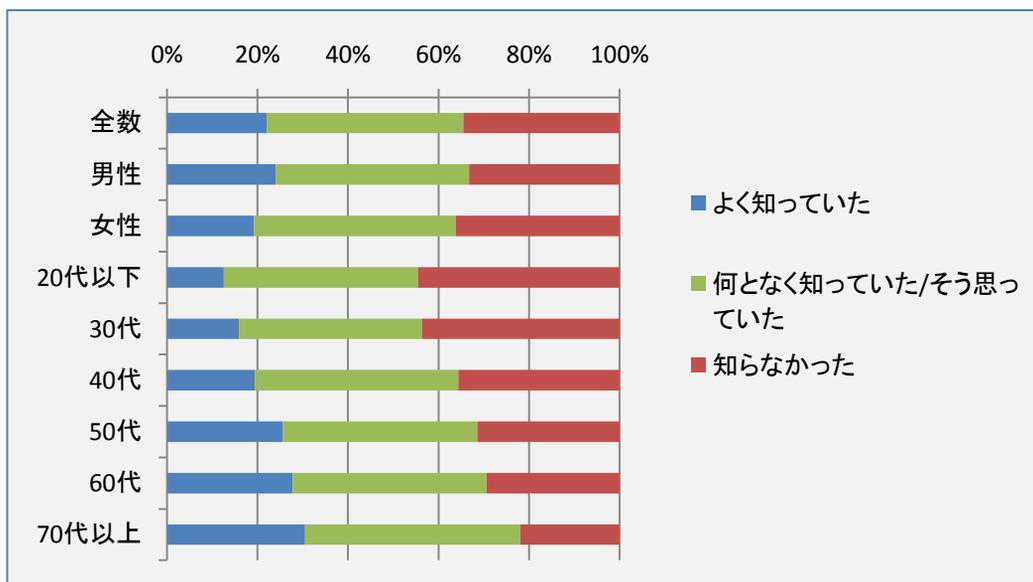
	全数	男性	女性	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
よく知っていた	10.3%	11.4%	8.8%	7.0%	8.6%	10.5%	11.3%	10.7%	14.0%
何となく知っていた/そう思っていた	47.2%	46.2%	48.6%	40.5%	43.9%	45.1%	47.3%	52.7%	55.3%
知らなかった	42.5%	42.3%	42.6%	52.5%	47.5%	44.4%	41.4%	36.7%	30.8%



6. 血液製剤の原料確保の方法は「献血のみ」であることをご存知でしたか。

「日本国内で血液製剤の原料を確保する方法は、すべて献血由来である」と、明確に知っていた人は22%、「何となく知っていた/そう思っていた」人は44%で、合計66%にのぼった。男性の方が、また年代が高まる方が、認知度は高まる。

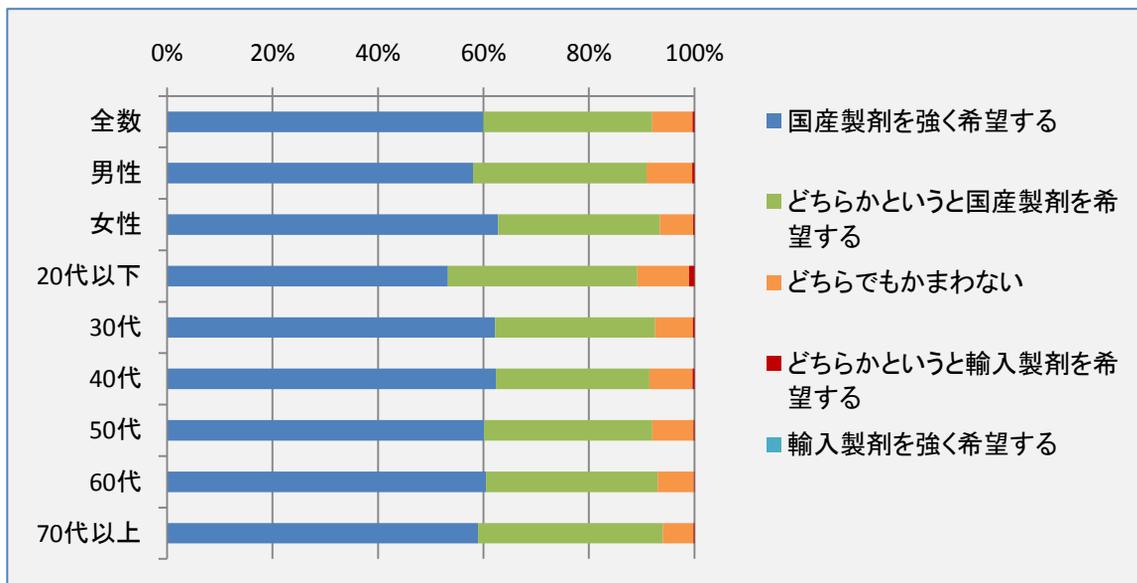
	全数	男性	女性	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
よく知っていた	22.10%	24.10%	19.20%	12.60%	15.90%	19.40%	25.60%	27.80%	30.50%
何となく知っていた/そう思っていた	43.50%	42.70%	44.60%	42.90%	40.40%	45.00%	42.90%	42.80%	47.60%
知らなかった	34.50%	33.30%	36.20%	44.60%	43.70%	35.60%	31.40%	29.40%	21.90%



7. 血液製剤の「国産・輸入」に対しては、どちらを希望しますか。

血液製剤の国産志向は強い。「強く」希望するのが60%、「どちらかという」と希望するのが32%で、あわせて92%の人が、国産を希望している。その理由を聞くと、「安全性」に関する不安が多いが、「なんとなく」も多かった。

	全数	男性	女性	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
国産製剤を強く希望する	60.0%	58.0%	62.8%	53.2%	62.2%	62.4%	60.1%	60.5%	59.0%
どちらかという」と国産製剤を希望する	32.0%	32.9%	30.7%	36.0%	30.3%	29.1%	31.9%	32.5%	35.0%
どちらでもかまわない	7.7%	8.7%	6.3%	9.8%	7.2%	8.2%	7.8%	6.8%	5.8%
どちらかという」と輸入製剤を希望する	0.3%	0.4%	0.2%	1.0%	0.3%	0.3%	0.2%	0.1%	0.1%
輸入製剤を強く希望する	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



HIV問題。エイズ、肝炎保持者が金銭目的で献血されているのではないかと心配。	45才	男性
海外の血液製剤の原料としての血液が、どのような手段で入手されているかがわからないから	38才	女性
政治的背景で各基準が変更されるのが容易に考えられるため	40才	男性
海外モノは日本と規格が違ったり、検査が正しくされているか怪しいものが多いので信用できない。かといって日本製でも偽装も多いので心配ですが。	43才	女性
人種によってかかる病気もある。もちろん健康な血液が利用されているのだろうが、そういう部分に不安を感じるから。	38才	女性
非加熱製剤フィブリノゲンの薬害事件が現実になっているため、国内でなら、責任の所在ははっきりしていると考え。	40才	女性
50年以上前に、事故にあい病院で輸血を受けましたが、その後ひどい肝臓病を患い長期入院をして高校も2年間留年をして、金銭的にも大変な目にあいました。その時代の輸血は、売血のせいだったんだろうと親からきかされていたので。	63才	男性

8. 血液事業(献血者を募集し、採血し、製剤化、病院等への供給をする一連の仕事)に対して、どんな要望がありますか。

国内での血液製剤を確保・供給する事業に対しては、「安全性」と「管理」と「情報開示」の強化を望む人が多い。

ハサップではないけれど、どこで誰から供給されたものかを知る権利が我々にはあると思う。	45才	男性
一部、安全性が確保できるのであれば、有償での非献血を認めても良いと思う。	48才	男性
家族の中に同じ血液型のもがないので、なるべく多く献血をしたいとおもっているが、近所に献血所がないためなかなか出来ずにいる。病院内などでも簡単に献血が出来るようなシステムを作ってほしい。	39才	女性
献血による善意を確実に反映できるよう採血、運搬、保存、製剤、使用などの各段階における管理を確実に実施し間違いのないようにしてもらいたい。	60才	男性
母が輸血からC型肝炎になったのでこういった不幸は100%ないように努力してほしい。	43才	男性
どういう風に血液製剤が使用・供給されているのか詳しく周知してもらいたい。	42才	女性
以前の薬害エイズ問題のように、知らない間に色々あっても情報がわからないことが多かったり隠ぺいされたりしていてあとから愕然とすることのないように、よいことも悪いことも情報開示を進め、もっともっと事業のPRをすべきでは？	48才	女性
過去の事件が根強く印象に残っています。輸血や血液製剤を使用した治療をさせてもらうかもしれない身として、安全性や情報開示は常にしてほしいです。また自己免疫疾患の軽症患者にも使えるような製剤の開発を強く願いますし、それらの法整備や基準値の見直しも厚労省や医師に願います。	45才	女性
今まで幸いなことに血液製剤を使用する問うな治療をうけたことはないが、安心して血液製剤を使用した治療が受けられるように患者や患者の家族に使用する血液製剤について説明してほしい。	54才	女性
安全性の確保、血液製剤による事故などが起こらないような徹底的な管理体制を希望します。必要な情報の開示なども含めて。	34才	女性
あまり知らずにいることが多いので少しでも知識を得られる機会が増えれば良いのではと思います。(いろいろされていると思いますが、なかなか直接血液についての情報を得る機会がなかったの。)	28才	女性
献血する際、非常に慎重に採決・献血を行っているように感じています。それは自身の目の前で血液を提供している部分が目視可能な状態だからでしょう。輸血される際は不可視な部分が多く、本人の気付かぬ間に感染・発症する危険性はないのでしょうか。自身の勉強不足もありましたが、知らぬまま罷り通ってきた血液についての実情を、今回のアンケートを機に多く知ることとなりました。逆に言うと、もっと血液事業について啓発を進めるべきとも考えました。	30才	男性
血液事業は人の命にかかわる大切な事業なのでなくてはならない重要なことだと思います。原料となる血液が 人の善意からなる献血に 頼っているため 大変なことだとは思いますが「安全性」の部分での妥協は絶対にしないで いただきたいというのが一番の期待というか お願いです。	47才	女性
知識がないのでわからない。ただ、安全を第一の目標にし、患者が知りたいと思うこと(採取国や献血・非献血の区別など)は明らかにしてほしい。	21才	女性

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 山内善行

TEL : 03-5433-3161 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-7-2 リングリングビルA棟6F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 生活者と医療機関の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>
